

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫楽農生活センター	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公社)ひょうご農林機構	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設環境を維持し、 来園者の快適な施設 利用を確保	【実績】 管理研修棟、学校管理棟等の屋内清掃 業務及び廃棄物処理業務を専門事業者 へ委託して実施したほか、施設関係者による 日常的な清掃を実施した。 【評価】 来園者から「快適」「美しい」「きれい」と評 される優れた園内環境を確保することが できた。	◎	◎
	設備保守管理	日常点検のほか、 法令等に基づく定期 点検等を実施	【実績】 電気工作物、合併処理浄化槽、電話交 換機、消防設備、空調設備等の保守管 理業務について、資格者を有する専門事 業者へ委託して実施した。 【評価】 職員及び委託業者による日常点検を実 施し、安全管理の徹底に努めた。	◎	○
	植栽管理	定期的な補植・除草 等による快適な園内 環境を維持	【実績】 花壇、芝生、緩衝帯等の日常管理、定期 的な補植、植替え、芝刈り、草刈り等を実 施したほか、美観の維持に努めた。さら に、管理研修棟前にてプランターによる 季節の花や果物等の植栽を実施し、来園 者の関心を集めた。 【評価】 整備の行き届いた芝生、植栽や間伐材 やポットを活用した花飾りなど、美しい環 境づくりを推進することができた。	◎	◎
	警備	園内秩序の維持、 盗難・火災等の未然 防止による安全確 保と財産保全を図 る。	【実績】 機械警備や委託業者による巡回警備を 定期的実施した。特にイベント開催時 には、周辺道路の混雑を避け来園者等 の事故防止を図るため、交通整理や巡回 等の警備強化を図った。 【評価】 機械警備並びに警備会社や機構職員等 による巡回警備、交通整理及び来園者誘 導等を実施し、利用者の安全確保に努め た。	◎	◎

	小規模修繕	来園者等の安全確保及び円滑な施設運営に必要と認められる場合に適宜実施	<p>【実績】 楽農生活センターのレストランに遮熱フィルム施工工事等を実施したほか、きのこ館ファンモーター、加湿器・送風機の取替等を実施し、来園者へのサービスの向上を図った。</p> <p>【評価】 適正な予算配分により要修繕箇所への対応を積極的に行い、来園者の安全確保をはじめ、快適性・利便性向上に努めた。</p>	◎	◎
	法定点検の実施	法令で定められた点検・検査を確実に実施	<p>【実績】 消防設備の点検など年2回実施した。</p> <p>【評価】 計画どおり実施した。</p>	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	開園日：休園日（12/29～1/3、毎週水曜日）を除く日、開園時間：午前9時～午後5時	<p>【実績】通常の開園日、時間に加え、年度計画に基づき、レストラン棟のみ午前8時～午後5時、8・9月はバーベキューの営業のみ午後7時まで開園した。</p> <p>【評価】 計画どおりに開館し、県民ニーズに沿った各種体験事業の充実に努めた。</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	設置管理条例の趣旨や基本協定等を遵守し、公平かつ平等な施設運営を実施	<p>【実績】 トイレ、スロープ等施設のバリアフリー化に加え、車いすの貸し出しも行っている。車いすの手入れ等を実施し、公平かつ平等を基本とし、誰もが快適に利用できる施設運営を実施した。</p> <p>【評価】 設置管理条例等に基づき、全ての利用者に公平な対応を行うよう徹底を図り、来園者にとって公平で快適に利用できる施設運営に努めた。</p> <p>アンケート結果や多数の礼状では、「職員が丁寧に対応してくれた。」等の肯定的な意見がほとんどを占めており、多くの来園者が満足し、快適に利用できるような施設運営となっている。</p>	◎	◎

	<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<p>年間を通じて食と「農」に関する各種体験や実践、研修コース等を実施</p>	<p>【実績】 事業参加者と連携した食体験、農産物直売、農産物加工体験、野菜・果樹栽培体験、里山再生塾等を実施した。また、親子での農業体験、生きがい農業コース、就農コース等において実践的な研修等を継続して実施した。さらに、楽農生活フェアを春・夏・秋・冬に開催し、体験イベント充実に努めた。 また、レストラン棟といちご園では、バレンタイン企画として夜間営業を行うなど季節に応じた様々な取り組みを行った。</p> <p>【評価】 年間を通じて多彩な体験プログラムや研修コースを継続的に実施している。 また、楽農生活フェアや、旬の農産物の加工体験(干し柿作りやつりしのぶ等)のほか、整備した芝生広場を活用し、楽農生活やさしいヨガ体験などのメニューを実施、来園者のニーズを汲み取り、来園者の増加を図る工夫をしている。</p>	◎	◎
	<p>利用者満足度調査結果(アンケート調査)</p>	<p>楽農生活の拠点施設として来園者の多様なニーズに応じた質の高いサービスを提供</p>	<p>【実績】 団体客からのアンケートや来園者からの礼状に加え、「生きがい農業コース」「親子農業体験教室」等の参加者や、イベント時の来園者へのアンケートを実施し、施設運営に来園者の意見を反映させるツールとした。</p> <p>【評価】 アンケートからは「施設についてわかりやすく説明していただいた」、「広い敷地内で掃除が行き届いてとても気持ちがいい」等の評価を得ているほか、「生きがい農業コース」等でも、「野菜を理解して育てることの重要さが解った」「有機農業への興味が深まった」との回答を得るなど、楽農生活の推進上、効果的な事業展開と魅力ある施設運営に取り組んでおり、さらなる満足度の向上を目指したサービスの提供や対応に努めている。</p>	◎	◎
<p>利用状況</p>	<p>利用者数</p>	<p>200,000人 [前年度：200,000人]</p>	<p>【実績】 来園者数：93,773名（R3年度：66,777名）</p> <p>【評価】 令和3年度と比較して増加したものの、新型コロナウイルスの影響により、目標者数を106千人下回った。 新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、来園者を増加させるため、事業参加者との連携を密にし、センターの活気づくりを進める。</p>	×	×

	施設稼働率	100% [前年度:100%]	【実績】 100% 【評価】 今後も 100%の達成を維持し、適切な運営を行っていく。	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:25,008千円 施設使用料:137千円	【実績】 指定管理料:25,008千円 指定管理料(修繕委託分):6,823千円 施設使用料:77千円 【評価】 入札等の手続きを円滑に実施し、効率的、効果的な予算執行を行った。	◎	◎
	経費節減に向けた取組	民間事業者の専門技術、経営ノウハウを活用し効率的な運営を実施	【実績】 事業参加者や地元グループ等との連携と協働による日常的な経費節減を実施。また、レストラン棟では、遮熱フィルムの貼付け・ロールスクリーンの取り付けを行い、電力の節約を事業参加者とともに実施し、経費節減を図った。 【評価】 各種体験事業や管理業務を事業参加者や地元グループ等との協働で実施しており、公と民の連携による運営の効率化に努めた。特に、きのご館やレストランへのサンシェード設置や空調稼働率の高いきのご館への屋根散水設備等により夏期電力の節約に努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	要望、苦情に対して誠意をもって対応する。	【実績】 センター長、次長において苦情・要望等を集約し、職員及び事業参加者に対して適切な指導を実施した。 また、管理研修棟エントランスにご意見箱を設置し来園者の要望等の収集に努めた。 【評価】 施設利用者からの要望・苦情を集約し、迅速かつ誠意ある対応の徹底に努めた。また、ご意見箱については、その回答をエントランスに掲示して、他の来園者への情報発信にも活用した。	◎	◎
	危機管理体制の確保	自衛消防組織編成に加え、公社本社、県所管課、警察署、消防署、救急医療センター、民間参画事業等を包括した緊急連絡体制を構築	【実績】 計画どおり実施 【評価】 自衛消防組織編成や緊急連絡体制を構築し危機管理体制の確保に努めた。令和4年度は、大きな事故はなかったが、今後も危機管理体制を維持して緊急時に備える。	◎	◎

	<p>県・関係機関との連携</p>	<p>事業参加者、県庁所管課で構成する協議会等を通じた調整・連携、楽農生活インストラクター・楽農サポーターの参画による事業推進を実施</p>	<p>【実績】 計画どおり実施</p> <p>【評価】 県と事業者を含めた協議会で定期的な連携体制が機能しているほか、緊急時には県と迅速な連絡を行っており、緊密な連携ができている。</p>	◎	◎
	<p>業務の再委託の状況</p>	-	-	-	-

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>〔施設維持管理業務〕</p> <p>イベント開催時における駐車場警備体制の徹底、日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努めるとともに、来園者が快適に過ごせる園内環境の確保に取り組んでおり、評価できると考える。</p> <p>〔運營業務〕</p> <p>生きがい農業コースや親子農業体験教室など各種講座や体験を実施している。楽農カフェ「Five Country Cafe」がオープンして1年となり知名度が上がり、くちーなかんでにおいてサンドイッチなどを提供する「食卓の彩りひより」が令和4年7月15日にオープンして今後も集客が期待できる。就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースでは、県が推進する就農者育成にも大きく貢献するなど、高い運営実績が評価できると考える。</p> <p>〔利用状況〕</p> <p>来園者数は9万3千人となり、年間の入園者数は目標を下回ったが、前年度から約3万人上回った。楽農生活フェアや、旬の農産物の収穫、加工体験、整備した芝生広場を活用し、楽農生活やさしいヨガ体験などのメニューでファンづくりに取り組んでいる。また、定期の運営協議会において改善策の検討を図るなど、適切に対応し来園者のニーズを汲み取り、来園者の増加を図る工夫をしている。</p> <p>〔収支状況・運営体制〕</p> <p>経費削減に努め、効率的な運営を行うとともに、事業参加者や地元農業者グループ等が参画・連携し、効果的な事業展開が行えており、評価できると考える。</p> <p>来園者の視点にたって、さまざまな取り組みを進めており、今後もより多くの県民がそれぞれのライフスタイルに合った多様な「楽農生活」の実践ができる拠点施設として、施設運営、事業展開等の向上に取り組む。</p>
--

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部総合農政課

施設名	兵庫楽農生活センター	現指定管理期間	令和3年～5年（3年間）
指定管理者	（公社）ひょうご農林機構	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

R2年R3年とコロナ禍で大きく入場者数が減少していたが、本年度は利用者の増加が見られた。また、感染症対策を徹底し、大きな事故やトラブルがなく、基本協定及び年度別協定に基づき、適正な管理が行われているものと判断できる。

引き続き安全の確保や園内環境の維持を徹底いただき、適切な管理をお願いするとともに、「楽農生活」の体験や実践ができる拠点施設として県民に活用されるよう努めていただきたい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

〔施設維持管理業務〕

日々の適正な施設修繕など、安全・安心な施設維持管理に努めていただいているため、利用者アンケートにおいても満足度が高く、施設利用者へのサービスの質は維持されており、今後も維持していただきたい。

〔運營業務〕

開設以来、来園者は252万人を超え、コロナウイルス感染症による外出自粛等の解除により、さらなる来園者の増加が期待できる。また、従来の広報に加えてSNSの積極的な利用等、若い世代にも関心を持ってもらうための広報を強化している。

さらに、就農希望者のための総合的な農業研修である楽農学校就農コースや親子農業体験、食と「農」の学びにつながる各種講座・体験を実施するなど、「楽農生活」の実現に貢献する事業を積極的に企画運営し、「楽農生活」の機運醸成に大きく寄与されている。

〔利用状況〕

利用者数は徐々に回復してきており、興味深いイベントの実施等、感染対策に取り組んだ上で積極的なセンターの運営を行っている結果であると考えます。

今後も感染対策を徹底し、野菜栽培・収穫体験・里山体験等ファンづくりに取り組み、定期の運営協議会において改善策の検討を図るなど、適切に対応していただきたい。

〔収支状況・運営体制〕

指定管理者を中心に、定期的に民間事業者や地元農業者グループ等との協議が行われており、また定期の運営協議会を行うなど連携体制が確立されており、評価できる。

今後もアンケートを実施するなど利用者の要望を把握し、利用件数の増加を図るとともに、利用者満足度の向上に努めていただきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立フラワーセンター	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	・清掃の実施により園内を入園者が常に快適に利用できる状態を維持	毎日、園内清掃を実施。 (園路、広場、便所等 1回/日以上)	◎	◎
	設備保守管理	・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検	建物、園内道路等は、日常、各現場で担当職員が点検を実施。	◎	◎
	植栽管理	・四季の特徴を明確にしつつ、デザインを重視した花のある風景を演出する年間植栽管理計画を作成し実施	植栽管理計画に基づく花壇の植栽や樹木剪定・伐採等による景観改良を実施。	◎	◎
	警備	・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間の機械警備 ・入園料の銀行への預金を複数の職員で実施	園内の安全確保のため、昼間の園内巡視による状況確認、夜間の機械警備等を実施。 また、事故等の発生に備え、対応マニュアルの再確認を職員に周知。	◎	◎
	小規模修繕	・軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施	軽微な補修等については、職員や近隣業者により実施。	◎	◎
	法定点検の実施	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく点検等は専門業者等に委託して実施。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休園日：毎週水曜日及び12月28日～翌年1月1日(ただし、3月中旬～5月上旬、10月中旬～11月下旬、1月2日～1月4日は無休)	左記の通り。 (冬期イベントによる夜間一部開園実施。12/3～12/24間の土日 17:00～20:00)	◎	◎
	公共性・公平性の確保	・地域自治体や地域団体との連携を図り、施設の利用促進を実施	コロナ禍で開催を見合わせていた連携イベント等の再開。 (加西市じば物産展、高校マラソン大会)	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	・入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種体験教室等を実施	新型コロナウイルス感染対策を行なった上で、84回のイベント等を実施。 食虫植物(ウツボカズラ)がギネス世界記録に認定。	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	入園者へのアンケート調査を 年1回実施	令和4年11月5日に南入園 口で来園者アンケートを実施 (回答数 286 人)。	◎	◎
利用 状況	利用者数	目標入園者数:250 千人 [前年度:190,970 人]	入園者数 234,300 人	○	○
	施設稼働率	体験教室の開催:12 回 [前年度:100%]	体験教室の開催:13 回	◎	◎
収支 状況	収支計画と実績	指定管理料:198,000 千円 利用料金収入:52,171 千円 収入計 250,171 千円 支出計 250,171 千円	指定管理料:201,762 千円 利用料金収入:52,514 千円 収入計 254,276 千円 支出計 254,270 千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	管理運営業務等に係る資材・ 資源の節減管理を行なう。	施設維持管理作業等の直営 化により外部委託費、購入経 費を削減、また、園内の清掃 を全職員で実施。	◎	◎
運 営 体 制	苦情要望等の対応体 制・内容	利用者からの苦情に対して 迅速かつ誠意ある対応に努 め、重要なものは県に連絡す る。	【苦情】花家族の会特典の下 方改定と会員証の品質。 【対応】運営困難により特 典を減ずるが、会員限定の 催しを増加することによりバ ランスを調整していることを説 明。会員証については、1年 間の使用に耐えうる、必要最 低限度の品質仕様での価格 競争による発注であることを 説明。	◎	◎
	危機管理体制の確保	マニュアルを基に利用者の安 全確保を第一とした管理体制 の確保	ネットワークへの掲載、職員 研修の実施により危機管理 マニュアルの内容を周知した。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県等と密に連絡を取りながら 管理運営を実施	温室等の修繕を開園しながら 行なうことができた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	・関係法令等に基づく法令点 検等を専門業者に委託して 実施	電気設備、汚水処理等関係 法令等に基づく点検等を専門 業者等に委託して実施した。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、イベントは平常化となり、入園者数はコロナ前(H30)の水 準まで回復した。併せて、ロハスパーク等持込イベントの誘致に積極的に取り組んだことにより、入園者を獲 得した。</p> <p>今後は、来園者の満足度が上がるように、植栽にも新たな取り組みを試み、入園者数の向上、効率的な 運営に努めていく。</p>
--

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部農産園芸課

施設名	兵庫県立フラワーセンター	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

指定管理者は、体験教室の開催を12回から13回に増やす、開園時間を延長して冬期イルミネーションイベントを行うことにより、入園者確保、施設の魅力向上に取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症の対策を行い、ロハスパーク等84回のイベントを開催することで、入園者数を234,000人とコロナ前の236,106人水準まで回復することができた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

入園者へのアンケート結果でフラワーセンターの良いと思われる点として、「花がきれい」70.3%、「珍しい花がある」51.4%を多くの入園者が回答している。

公募化に向けて、展示する花の品質を維持できるように、今年度に老朽化したバックヤード温室の改修を計画しており、この改修工事を開園しながら実施できるよう指導していく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	A	S		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立公園あわじ花さじき	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	入園者が常に快適に利用できる状態を維持する。	毎日、園内清掃を実施 (園路、芝生、駐車場、便益施設棟等 1回/日以上)	◎	◎
	設備保守管理	・担当職員による日常点検 ・建築物、設備の定期点検	日常点検は職員が実施、設備等の定期点検は専門業者に委託して実施した	◎	◎
	植栽管理	・花畑の生育状況を把握し、灌水、抜根除草、薬剤散布等を計画的に実施 ・兵庫県内で生産された花苗を使用 ・近隣牧場と連携し低コストで大面積への堆肥散布	植栽の管理は計画を基本に生育、気象に合わせて行い、植物が良好な状態になるように努めた 花畑の花苗はすべて兵庫県産を使用した 計画通りの堆肥散布を行った(68,400 m ²)	◎	◎
	警備	・昼間における1日1回以上の巡視 ・夜間における便益施設棟の機械警備 ・駐車場、園内の監視カメラによる昼夜監視	左記の通りの警備を実施した	◎	◎
	小規模修繕	・簡単な補修等については、職員による補修作業や近隣業者による補修	軽微な補修作業は職員や業者で対応(展望台のアスファルト舗装等)	◎	◎
	法定点検の実施	・関係法令等に基づく法令点検等を専門業者に委託して実施	電気設備、汚水処理等関係法令等に基づく法点検等は、専門業者等に委託して実施	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休園日は12/29～1/3 ・園内作業等のための臨時休園日を年間14日設ける ・開園時間:9時～17時	台風、大雪により3日間休園したが、それ以外は計画通りの運営を行った。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	地元のイベント等に積極的に参加し、観光関連団体との連携に努める	花みどりフェア2022のサテライト会場として参加 観光協会が実施するスタンプラリーに参加	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	入園者ニーズを踏まえた花に関する催し物や各種誘客イベントを企画実施	公募したデザインを牧草地に描くアースワークを実施(応募総数 458 点) コスモスの摘み取りを 4 回実施(10 月下旬)	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	入園者へのアンケート調査を年 1 回実施	10 月 18~27 日の間に 4 日間で実施した(回答数 413 人)	○	◎
利用状況	利用者数	目標入園者数: 750,000 人 [前年度: 473,820 人]	目標には達しなかったが入園者数 564,350 人となり、前年度を上回った	○	△
	施設稼働率	駐車場 [前年度: 237.1]	駐車場稼働率 259.6% ※稼働率=延べ駐車台数/延べ駐車場枠数	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	【計画】 指定管理料: 100,000 千円 利用料金収入: 41,200 千円 その他収入: 10,550 千円 収入計: 151,750 千円 支出計: 149,359 千円	【実績】 指定管理料: 111,932 千円 利用料金収入: 34,909 千円 その他収入: 11,874 千円 収入計: 158,716 千円 支出計: 158,214 千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	管理運營業務等に係る資材・資源の節減管理	施設維持管理作業等の直営化により外部委託費・購入経費を削減	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡	利用者からの苦情に対して迅速かつ誠意ある対応に努め、重要なものは県に連絡している。	◎	◎
	危機管理体制の確保	マニュアルを基に利用者の安全確保を第一とした管理体制の確保	事故等の発生に備え、対応マニュアルを職員に周知するとともに、救命救急訓練を 1 回、消防訓練を 2 回実施した	◎	◎
	県・関係機関との連携	抜本的に施設の修繕等が必要な場合は、県に報告し指示に従う	転落防止柵等の補修工事を県と連携しながら行った	◎	◎
	業務の再委託状況	事業計画通りの業務内容、選定方法で外部委託を実施する	事業計画通りの外部委託を行った	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

今年度は、コロナ禍が継続するものの緊急事態宣言による休園もなく、バスも少しずつ増え、回復の兆しが見えてきた一年であった。またコロナの発生状況の波に合わせて、入園者数は変移したものの、結果的に56万人を上回った。植栽においては、台風被害も少なく、生育は良好であったが、品種により種子の入手が困難な状況が発生しており、新たな品種の導入も検討しなければならない。維持管理においては、清掃スタッフ等の人手不足が顕在化してきており、新たな人材確保を模索している状況である。

現在、周辺の観光施設は目まぐるしく変化しているが、当園は花の景観演出という花さじらしさを出しつつ、ポストコロナに向けた新たな取り組みを試みていく。

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部農産園芸課

施設名	兵庫県立公園あわじ花さじき	現指定管理期間	令和2年～4年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県園芸・公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

今年度は、コロナ禍による影響もありながら約56万人（前年度比119%増）の入園者となり、前年度を上回る結果となった。

また、アンケート結果によると、花さじきのHPを見て来園される方の割合が最も多い。そのため、HPの構成やデザイン等、情報がより分かりやすくなるよう全面リニューアルし、スマートフォンやタブレット端末などでもより快適に閲覧できるようにした。

さらに、花みどりフェアのサテライト会場として参加したり、観光協会が実施するスタンプラリーに参加するなど、地元のイベントにも積極的に参加し、観光関連団体との連携にも努めた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

入園者数は増加傾向にあるが、一方でバスの台数（団体客）は、コロナ禍前（R1年度）の約70%程度となっているため、観光部局、団体と連携するなどして、今後は団体客数も増やしていきたい。

また、アンケート結果によると、年代別では、入園者数の約40%が60代以上、居住地別では、約90%が関西圏であった。Instagram等のSNSを有効活用し、全国の幅広い世代へ積極的に情報を発信し認知度向上を目指す。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	S	S		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立但馬牧場公園	現指定管理期間	令和3～5年度(3年間)
指定管理者	新温泉町	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	屋内清掃、屋外清掃、トイレ 清掃、ごみ処理の実施(1回/ 日)	職員による清掃等を毎日実 施し、来園者が常に快適に利 用できる状態を維持した。	◎	◎
	設備保守管理	施設・設備の日常及び定期 的な点検、異常発生時の速 やかな対応	職員による日常的・定期的な 点検を行い、適切な保守管理 に努めた。	○	○
	植栽管理	年間植栽管理計画の作成、 花き・樹木・芝生等の展示・管 理	年間植栽管理計画に基づ き、植え替えや害虫駆除、剪 定等による適切な管理を実 施し、魅力ある景観の提供に 努めた。	○	○
	警備	巡回(1回/日)、動物舎の出 入管理、交通整理等の実施、 緊急連絡体制の整備	①安全確保 職員による毎日の巡回や夜 間警備の業者委託、確実な 施錠の励行等を行い、緊急 時の連絡体制を整備した。 ②家畜伝染病対策 動物のふれあい・見学にあ たっては、ビジターハウスに て利用者が氏名等を記帳す ることで入場管理を行った。 ③交通整理 駐車場の交通状況は職員が 毎日監視し、GW等来園者が 多い場合には交通整理のた めに警備員を配置した。	◎	◎
	小規模修繕	経年劣化・老朽化等による施 設・機械・設備等の小規模な 修繕の速やかな実施	軽微な補修は職員で行い、 業者による対応が必要なも のは速やかに発注のうえ修 繕した。	◎	◎
	法定点検の実施	関係法令等に基づく電気設 備等の法定点検の実施	業者委託により電気・消防 設備の点検を年1回、電気工 作物・浄化槽の点検を毎月 実施した。	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	木曜休園(祝日の場合は翌 日) 開園時間 9時～17時	職員勤務体制を適宜調整 し、計画のとおり開園した。 (開園日数:317日)	◎	◎

	公共性・公平性の確保	公平かつ平等な運営の実施、全ての方が利用しやすい施設となるよう施設整備及び必要とされる配慮等を提供	特定の団体等に有利が生じないように公平な運営を行い、車いす等の備品の貸し出しや多言語対応機器の利用等、来園者に応じて可能なかぎりの対応や工夫を行った。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	<p>①但馬牛の展示、管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放牧を活用した飼育展示 ・繁殖雌牛の飼育:13頭 ・子牛出荷予定頭数:8頭 <p>②小動物の展示、管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場での展示 <p>③花き、樹木等の展示、管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内での花の展示 <p>④但馬牛博物館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示(企画展:2回、出張展示1回等) ・資料管理 <p>⑤イベントの企画、運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬牛への理解が深まるイベント等の実施:60企画 	<p>①地域の飼育方法に倣って放牧を行い、周辺環境に調和した飼育展示を実施した。また、繁殖雌牛を12頭飼育し、子牛を9頭出荷した。</p> <p>②ふれあいを重視した飼養環境を維持し、適正な繁殖管理に努めた。 飼育頭数:ヒツジ等73頭</p> <p>③花園やビジターハウス周囲の花壇で花の展示を行った(通年展示、植替2回)。</p> <p>④企画展の実施を2回(6~10月、2月~8月)、出張展示を1回(10~1月)、小学校を対象とした但馬牛に関するオンライン授業を2回(6/10、8/26)実施した。</p> <p>⑤夏休み但馬牛講座、但馬牛クイズ大会、羊の毛刈り体験、牧場公園雪まつり等、イベントを55回実施。延べ参加者2,183名。</p>	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	アンケートを実施し来園者からの意見聴取や満足度等の把握・管理を行う。	イベント開催時に2回実施。施設全体の満足度について、良好である回答(大変満足、やや満足)の割合が97%だった。	◎	◎
利用状況	利用者数	目標年間来園者数:200,000人 [前年度実績:150,540人]	年間来園者数実績:157,440人 新型コロナウイルス感染症の影響による来園予約のキャンセルや、積雪不足によるスキー場の営業日数の少なさから、前年度比104.6%(6,900人の増)に留まり目標は達成できなかった。	△	△

	施設稼働率	<p>県や町等との連携や各種媒体の活用により効率的に広報を行い、利用促進を図る。</p> <p>【計画】 農産加工体験 目標受入回数:150回 目標イベント使用回数:12回 [前年度実績] 農産加工体験 受入回数:151回 イベント使用回数11回 稼働日数:109日 稼働率:34.5%</p>	<p>新型コロナウイルス感染対策のうえ加工体験を実施した。 主な加工体験:そば打ち、うどん打ち、ソーセージ作り等</p> <p>【実績】 農産加工体験 受入回数:247回 イベント使用回数:10回 稼働日数:135日 稼働率:42.6%</p>	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	<p>【計画】 収入計:97,849千円 ・指定管理料:88,443千円 ・利用料金収入:627千円 ・その他:8,779千円</p> <p>支出計:97,849千円</p>	<p>【実績】 収入計:103,444千円 ・指定管理料:90,840千円 ・利用料金収入:230千円 ・その他:12,374千円</p> <p>支出計:103,444千円</p>	○	○
	経費節減に向けた取組	<p>管理運営費の低減を図るため、管理手法の工夫等に取り組む。積極的に資源の再利用を行う。</p>	<p>軽微な補修・修繕は職員で行い、資材の再利用や節約についても積極的に取り組んだ。 光熱水費の経費節約に取り組み、紙の広報媒体を減らしSNSで効率的な周知・広報を行うことにより用紙使用量を削減した。</p>	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	<p>要望及び苦情に対して誠意を持って対応し、重要な内容については県へ速やかに報告する。</p>	<p>ご意見ご要望箱を設置しているが、本年度は投書がなかった。特段の苦情等も確認されなかった。 接遇に関する情報提供を朝礼時に行い職員への教育を実施した。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	<p>災害や急病、怪我、犯罪等が発生した場合、安全確保のうえ救護対応を行い、関係機関への連絡を行う。簡易な薬品や資材等を常備し、対応マニュアルを職員へ周知する。</p>	<p>緊急連絡網を作成し職員へ周知した。 軽度の傷病者に常備していた救急用品・医薬品を提供した。</p>	○	○

	<p>県・関係機関との連携</p>	<p>県等と密に連絡をとりながら協定書・仕様書に基づいた適正な管理運営を行う。 随時、管理運営状況等を県へ報告し、調査・照会や事業実施等について要請があった場合は協力を行う。 また、各種団体、地域住民、公共機関等と連絡調整を行い、利用促進活動に努め、地域振興に資する活動等についても積極的に取り組む。</p>	<p>県や町、地域、その他関係機関等と緊密に連携をとり管理・運営を行った。 「人と自然の博物館」との共同企画実施:3回 研修、社会学習等の受入及び派遣:41回 トライやるウィーク受入:1回(3名) 近隣のこども園や学校、PTA等の利用も多く、交流施設として地域に必要とされている。</p>	○	○
	<p>業務の再委託の状況</p>	<p>施設・設備の保守管理、資源廃棄物の処理、夜間警備、来園者の交通整理</p>	<p>左記及び除雪業務、ウェブサイト保守、枯損木処理、イベント運営業務、園内管理作業補助、加工体験業務補助、但馬牛博物館殺虫業務、ゲレンデ芝生ピン抜き業務、イラストパネル作成業務、定期輸送にかかる実証実験運行業務</p>	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>○自己評価 新型コロナウイルス感染症の流行拡大時期があったほか、夏期の猛暑による外出の自粛や冬期の積雪不足によるスキー場運営の不調といった影響が大きかったものの、ゲレンデの山頂にブランコを設置したことでテレビ等のメディアに多く取り上げられ、SNSを活用した情報発信も積極的に行うことにより、来園者数の目標値には及ばなかったが前年度比では増加となった。 但馬牛アンバサダー講習会の実施やひょうごフィールドパピリオンへの参画等、県が主体の事業についても連携し取り組むことができた。 但馬牛博物館では本年度から新たに館長と特任研究員を任用することで体制を強化し、資料収集や調査研究、企画運営、展示方法、情報発信の充実・改善に取り組み、様々な職種・団体・年齢が対象の研修や来館者への解説を行うことで、“但馬牛”や“但馬牛と人”が育んだ文化・歴史の普及に努めた。</p> <p>○来年度の取組目標 来園者数の増加にむけて、地域内の他の観光資源等と誘客要因の相乗効果を生み出せるよう連携の強化を図り、情報発信についてもより目につきやすいよう工夫を凝らし、広範囲に周知できるよう努める。</p> <p>○課題 開園日時、動物見学可能時間、グリーンシーズンのリフト運行条件等、基本的な情報の周知が十分でなかったことから、各種媒体による広報活動を強化する。</p>

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部畜産課

施設名	県立但馬牧場公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	新温泉町	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

<p>【維持管理業務】</p> <p>○豊かな自然の中に位置する施設特性を活かし、ファミリー層のニーズに応えたイベントや憩いの広場を提供する取組みが行われている。</p> <p>○必要な小規模修繕を随時実施する等、施設の維持管理体制が整っている。</p> <p>【運営業務】</p> <p>○園内の山頂に設置されたブランコは斬新で、来園動機につながる価値が創出されている。</p> <p>○利用者アンケート結果で、施設全体の満足度について9割以上の利用者から満足との評価を得ており、おおむね良好な運営ができています。</p> <p>【利用状況】</p> <p>○「但馬牛博物館探検隊」等、但馬牛を間近で見学できるイベントが開催されており、地域の子どもやリピーターの来園を見込んだ運営がなされている。</p> <p>【収支状況】</p> <p>○各種 SNS を利用した周知・広報による費用節減が図られている。</p> <p>【運営体制】</p> <p>○他県立博物館との事業連携による企画展では、関係者の関心が集まる魅力的な展示が行われている。</p>
--

2 業務改善に向けた分析・指導内容

<p>○施設の老朽化により、小規模修繕が必要な箇所についてリストアップし、快適かつ安全に過ごすことができる環境づくりを目指し、日々の適正な施設点検、修繕、管理に引き続き努める。</p> <p>○ひょうごフィールドパビリオンとしての展開にむけて、案内看板の内容や設置場所の見直し等、来園者の情報アクセシビリティ確保の強化に取り組むよう指導を行っていく。</p>

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
C	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が40%超60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立国見の森公園	現指定管理期間	令和3年～令和5年(3年間)
指定管理者	(公財)しそ森林王国観光協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	<ul style="list-style-type: none"> 施設は職員全員による日常清掃 広場、遊歩道等は園地管理職員による定期清掃 ゴミ収集は業者に委託(週1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設は職員全員による日常清掃 広場、遊歩道等は園地管理職員による定期清掃 ゴミ収集は業者に委託(週1回) 	◎	◎
	設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者委託での保守点検実施 森林学習軌道(日常点検 定期点検年4回) 電気設備(常時監視装置 定期年6回) 学習館トイレ(定期年4回) 消防設備(定期年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者委託での保守点検実施 森林学習軌道(日常点検 定期点検年4回) 電気設備(常時監視装置 定期年6回) 学習館トイレ(定期年4回) 消防設備(定期年1回) 	◎	◎
	植栽管理	<ul style="list-style-type: none"> 園地管理職員による日常手入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 園地管理職員による日常手入れ 	◎	◎
	警備	<ul style="list-style-type: none"> 夜間、休日については警備会社に委託 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間、休日については警備会社に委託 	◎	◎
	小規模修繕	<ul style="list-style-type: none"> 建物関係計画修繕を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 照明の LED 化 山麓床腐朽部の修理 ハイキング道入り口のテーダ松伐採 モノレール沿いの支障木伐採 モノレールオーバーホール実施 	◎	◎
	法定点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> 防災設備(煙・熱感知器)法定点検 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年2月28日 二和防災設備(株)により実施済み。(問題なし) 令和5年3月6日消防用設備等点検結果報告書提出 西はりま消防組合宍粟消防署受理 	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	<p>通年開園とする。ただし下記休日を設ける。</p> <p>毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>年末年始 12/29～1/3</p> <p>開館時間 9:00～17:00</p>	<p>通年開園とする。ただし下記休日を設ける。</p> <p>毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>年末年始 12/29～1/3</p> <p>開館時間 9:00～17:00</p>	◎	◎

	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム参加者募集等の情報についてはHP、リーフレットを関係公共施設への常設 ・森林学習軌道については窓口、電話で予約を先着順で受け付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム参加者募集等の情報についてはHP、リーフレットを関係公共施設への常設をしている。 ・森林学習軌道については窓口、電話で予約を先着順で受け付けている。ただし定員を変更した場合、土日祝の電話予約は停止して窓口のみとしている。 	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実施目標数 105回(毎週土・日) ・団体利用目標数 400団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施プログラム数 100回(コロナ感染症の関係で食定員減継続) ・団体利用数 381団体 	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来園者に対しては交流館および学習館にそれぞれアンケート用紙を設置し、意見・要望を収集 ・プログラムアンケート再開(令和4年9月より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般来園者アンケート 投函数 73件(新様式分のみ) 総合評価 大変満足 46% やや満足 35% 普通 17% やや不満 2% ・プログラムアンケート 回収数 248 件 総合評価 大変満足 77% やや満足 18% 普通 4% 大変不満 1% 	◎	◎
利用状況	利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 40,000人 [前年度:30,902人] 	<ul style="list-style-type: none"> 年間来利用者数 39,236人 ・一般利用者数 30,320人 ・プログラム参加者 1,677人 ・団体利用者数 4,398人 ・里山づくり活動参加者数23人 ・視察 35人 ・その他 2,783人 	○	○
	施設稼働率	<ul style="list-style-type: none"> 開園予定日 306日 森林学習軌道運行予定日306日 森林学習軌道運行便数2,448便 [前年度:93.7%] 	<ul style="list-style-type: none"> 開園日 306日 森林学習軌道運行日 306日 森林学習軌道運行便数1,652便 	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	<ul style="list-style-type: none"> 予算額(指定管理料) 収入 35,702,000 円 支出 35,702,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> 決算額(指定管理料) 収入 46,734,274 円 支出 46,734,274 円 (支出:うち修繕・整備等) 危険木伐採 2,607,000 円 計画修繕費 14,362,320 円 収入総合計 46,734,274 円 支出総合計 46,734,274 円 	○	○
	経費節減に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム単位で収支"0" ・木工体験材料の自達(廃材利用) ・団体収入増のためのPR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム講師料の変動制採用 ・木工材料の地元業者からの廃材を引き取り、購入品を押さえた ・学校関係のネットワーク活用により新規団体が増加した。 	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	国見の森公園安全管理マニュアルおよび森林学習軌道運行管理マニュアルのなかに体制・対応明記	国見の森公園安全管理マニュアルを遵守し、森林学習軌道運行管理マニュアルを新規作成し対応している。	◎	◎

危機管理体制の確保	国見の森公園安全管理マニュアルおよび森林学習軌道運行管理マニュアルのなかに体制・対応明記	国見の森公園安全管理マニュアルを遵守し、森林学習軌道運行管理マニュアルを新規作成し対応している。	◎	◎
県・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・運営状況については常に県、指定管理者と協議、助言をうける ・既存の緊急時の連絡体制継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・6公園連絡協議会、視察等を必要に応じおこない情報を共有した。 ・事故、救急、消防、防犯等、緊急連絡を必要とする事象発生はなかった。 	◎	◎
業務の再委託の状況	特に必要がないので再委託はしない。	県の許可、予算をうけ、間伐、大規模支障木等は関係機関、森林組合に委託	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>自己評価</p> <p>① 成果のあった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来園者が前年比27%増加した。これはコロナ感染症発生前の水準に戻ったことと団体利用、特に初来園の学校関係のリピーターが増えたことが要因でした。 ・上記のとおり新規学校のリピーター団体利用が増えたことで木工体験料収入の売り上げがあがり、プログラム関係はもとより里山関係の整備費用にも流用が可能となった。 <p>② 改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校団体利用を継続維持していくことが最大の懸案事項となったため、地道な PR 活動、特に学校ネットワークを活用した口コミの評判をいただけるように日々精進する必要がある。 <p>来年度の取り組み目標・課題等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な財源を確保するため、上記の PR 活動に加え魅力ある木工体験アイテムを考案し、満足度を上げる活動をしていく。 ・モノレールの更新時期を決めることが今年度最大のミッションとなり進捗管理を含めた関連する OH の情報共有が肝要となる。
--

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	国見の森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)しそ森林王国観光協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 地域団体のイベントに積極的に参加している。
- 地元の学校との連携強化やさらなるネットワークの拡大に努めたことで、新規の学校の団体利用が増え、またリピーターとなり、前年度に比べて来園者が約3割増加した。
- 中央市商工観光課が発行する市のパンフレットに森林セラピーの場や「登山ルート」の一つとして掲載しており、より多くの人に公園を知ってもらえるようなPRに努めている。
- 森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により効率的に行っている。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展してだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、団体利用を含めさらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
- 団体利用者の増加が著しいことについては、大変評価できる。今後も従前通り周辺地域との連携強化やネットワークの拡大に力を入れ、リピーターを増やす取組と新規の来園者を獲得するためのPR活動をすすめながら、公園の運営に努めて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	ゆめさきの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	ゆめさきの森公園運営協議会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	園内の清潔さ、快適性を維持する。	トイレ・館内清掃は週2回委託。 芝生広場は鹿の糞を含め毎日清掃。散策道は除草、落葉除去の実施。	◎	◎
	設備保守管理	安全、安心確保の為、日常点検の実施。	拠点施設周辺は毎日点検実施。 散策道は1回/月実施し倒木・落石等その都度実施。	◎	◎
	植栽管理	「観察の森」の整備実施。	ブルーカーボン基金活用支援事業を受け、広葉樹約100本「観察の森」に植樹。	◎	◎
	警備	夜間・休園日は警備会社(セコム)に委託。駐車場はバリカー施錠。	問題は全く発生していない。 センサーが働いたときは虫が原因であり、虫に強いセンサーに交換予定。	◎	◎
	小規模修繕	獣害防止対策(生態系が崩れる)。	公園全体は無理な為、「観察の森」の0.3haを獣害防止柵を設置した。	◎	◎
	法定点検の実施	防火用設備点検を1回/年実施。	毎年3月に消火器具の点検実施。 中盤消防署に報告書提出。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休園日:毎週月曜日、年末年始 (12月29日～翌1月3日) ・5～8月:9時～18時 ・9月～翌4月:9時～17時	特に問題なく実施している。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	来園者の要望は出来る限り対応する。但し、キャンプ及びバーベキューは禁止している。	園内は火気厳禁としている。 隣の弥勒寺に重要文化財が有る為、山火事防止の必要性がある。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	新型コロナ禍前に戻す。	総来園者数:28,186人(過去最高) プログラム実施:83回、参加者数3,871人 対令和元年(コロナ禍前) 5月実施「新緑まつり」:98% 10月実施「森まつり」:154%	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	プログラム参加者にアンケートを採る	アンケート数:103件 スタッフ満足:96%、スタッフ適正:89% 公園内満足:78%、清潔満足:83%、プログラム満足:94% 総合満足度:86%	○	○

利用状況	利用者数	目標:26,000人 [前年度:22,245人]	28,186人 過去最高を記録した	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし [前年度:〇〇%]	利用料金収入施設なし	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 37,776,400円 支出 37,776,400円	予算額(指定管理料) 収入 37,776,400円 支出 37,776,400円 (支出:うち修繕・整備等) 計画修繕費 11,257,400円 収入総合計 37,776,400円 支出総合計 37,776,400円	○	○
	経費節減に向けた取組	指定管理料内に収める。	職員で出来る仕事は出来るだけ職員が行う(委託業務を減らす)	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	事務局長が即時対応 職員が即時対応、必ず事務局長へ報告する	苦情無し 散策道の整備費用が必要	◎	◎
	危機管理体制の確保	緊急連絡体制の確立 各種訓練の実施	職員の連絡体制有 事務所内に緊急連絡先を掲示 年1回消防署と連携し散策道の危険個所の点検と緊急時の対応の確認を実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県(担当部署)と連携を深める 運営委員が地元が多く、地元機関に理解してもらえる様務める。	県との連携に問題は感じていない 活動スタッフ用機関紙を地元自治会にも送付し活動の理解に努めた。 地元中学校のトライやるウィークを受入、年2回の森まつりに地元自治会等参加を依頼し連携に努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況		公園で対応できない支障木や危険木の伐採を森林組合に業務委託した。 これにより、来園者の安全を確保できた。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

公共の森林公園としての意識は十分あるが、20年経過した森を整備するには予算・人員が少なすぎる。お客様への安全・安心の為、散策道及び散策道沿いは十分注意して整備している。鹿の異常繁殖による食害で生態系が崩れていると感じている、尚且つヤマビルの急激な増加にも苦慮している。「観察の森」に獣害防止ネットを取り付けたので、中の整備を活動スタッフに実施依頼している。数年後にはお客さんがゆっくりと森の観察が出来ると信じている。
自己評価：◎

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	ゆめさきの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	ゆめさきの森公園運営協議会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 園内の清掃、設備保守管理を徹底しており、来園者の安心・安全の確保に努めている。
- 小学校の団体受け入れ、中学校のトライやるウィーク、高校のインターンシップ受け入れなど、地域との交流、次世代の育成にも熱心である。
- 地元ボランティアを中心に森の再整備を実施しており、森の豊かさを守る取り組みが行われている。
- 新型コロナウイルス感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して実施している。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラム参加者の満足度が94%と高く、来園者は前年度実績、令和4年度目標人数を上回り過去最高を記録したことは大変評価できる。プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施して欲しい。
- ホームページやSNSの存在を来園者やプログラム参加者に周知し、公園の存在をより多くの県民に知ってもらうことで、さらなる来園者の確保に努めて欲しい。
- 獣害被害等、公園だけの対策が難しい課題については、県（自然・鳥獣共生課）、姫路市（鳥獣対策室）等の専門機関の指導を仰ぐ、地元猟友会等の関係機関と協力する等、対応を工夫して課題解決に努めて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 4 年度 管理運営評価シート

施設名	なか・やちよの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	なか・やちよの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	トイレ・ホールの定期的点検を行う。 倉庫等の整理整頓を行う。	トイレ・ホールの清掃点検(毎日・火曜日は水洗い) 里山倉庫、木工倉庫の整理整頓(月1回) 建物の周辺清掃(週1回)	◎	◎
	設備保守管理	日常点検を行う。 職員による設備点検を行う(年1回)。 不具合の発見と早期の対策。	日常点検を行う。 職員による設備点検の実施	◎	◎
	植栽管理	定期的な草刈り(全般)。 シカによる被害の対策。 樹木の剪定。	広場の芝生草刈り(伸びてきたら) シカ対策の電柵、ネットの設置(前回未設置分) ネムノキ等の剪定 茶畑・果樹園の整備	◎	◎
	警備	施設、駐車場バリアー施錠の順守。 夜間警備は ALSOK に委託している。	施設の施錠は職員が施錠している。夜間警備は ALSOK に委託して管理している。	◎	◎
	小規模修繕	園内の施設の点検及び小規模修繕の実施。	散策道の階段補修、ナラ枯れの伐採	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽の保守管理を行う。	浄化槽保守点検の実施(年8回2か所)	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年 9:00～17:00	◎	◎
	公共性・公平性の確保	プログラム受付の公平な対応	プログラム受付(電話・FAX・メール)で統一した日時を定め公平に受け付けた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	※前年度実績 企画プログラム数:35回(529人) 団体利用:94回(2,592人) 里山づくり活動:98回(253人)	企画プログラム数:67回(993人) 団体利用:180回(3,404人) 里山づくり活動:96回(174人)	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者アンケートボックスをホールに設置し、集計・調査を行う。 散策道の東屋(黒木山と展望台)に感想ノートを設置。	アンケート総数 34 通 おおむね満足された方が多かったが、溪流の広場にスタッフを常駐させて欲しいとの要望もあった。総数が前年度よりも多かった。 感想ノート総数 464 件(黒木山 210 件、展望台 254 件) おおむね満足された方が多かった。総数が前年度よりも多かった。	◎	◎

利用状況	利用者数	20,000 人 [前年度:15,497 人]	23,709 人 前年度より約 8,000 人増加。 運営体制の立て直しとして、プログラム数や森づくり活動を充実させた事が 利用人数増加につながった。	◎	◎
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料) 収入 26,519,000 円 支出 26,519,000 円	決算額(指定管理料) 収入 35,290,000 円 支出 35,290,000 円 (支出うち修繕・整備等) 計画修繕費 6,664,000 円 収入総合計 35,290,000 円 支出総合計 35,290,000 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	消耗品に対する取り扱いを大切にするとともに、節約を推進する。	節約に取り組めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情・要望内容の把握に努める。 生の声の収集(感想ノート設置)	湖岸道付近で猟犬を放している人がいると来園者から報告を受けその後発砲音があった。狩猟者に狩猟可能区域ではないことを注意し警察へ通報した。	◎	◎
	危機管理体制の確保	講習会の開催	講習会は開催できなかった。 緊急連絡リストの作成(職員の入れ替わりの都度) 散策道の立ち枯れ、倒木処理の実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県、地元、関係機関との連携を図る。 特に、町行政との関係性を強めた。	連絡を密に取り合い、緊急時にもスムーズに対応できるよう運用している。	◎	◎
	業務の再委託の状況	長年勤めていた職員が退職し、会計事務に不安があるため会計事務所の一部業務委託をしている。	月1回税理士に来ていただき、経理の相談や会計処理、消費税計算等の業務を委託している。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

地元住人への関心強化として駐車場の開放、ふるさとの森として里山の入会地復活、アフターコロナで根本の CSR 的機能での都市部と農村部の交流が少しずつ回復している。

開園 20 年を迎え、コナラやアラカシなどのブナ科植物も肥大化して、萌芽更新が必要です。昭和年代の里山を目指して薪炭林や極相林、人工林の仕分けを行いより良い「ふるさとの森」にしていきます。

大阪万博での来園者誘致などグローバルな日本の里山紹介を発信したい。

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	なか・やちよの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	なか・やちよの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ボランティア等による活動や地域の小学校と連携した次世代育成の取組を行っている。
- 公園を多可町観光交流協会の実施する「レンタサイクル事業」の拠点施設として活用したり、地元住民に公園の駐車場を開放したりして、公園への関心や利用者増に向けた取組を行っている。
- 森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により効率的に行っている。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラム数や森づくり活動の充実により、来園者数が前年度より約8,000人増加したことは大変評価できる。
- プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。また、兵庫県観光百選の一つに数えられる竹谷山沿いの溪流や翠明湖、北播磨の山並みが一望できる尾根筋など、四季を通じて豊かな自然を満喫できる強みを活かし、PRの方法を工夫、発展させ、新規の来園者の確保にも努めて欲しい。
- アンケート総数を増やすため、アンケートボックスを設置するだけでなく、プログラム参加者に回答をお願いするよう声かけ等も工夫して行って欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取組を継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	ささやまの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	園地管理職員による事務室棟・納屋棟・トイレ棟・道場棟等の清掃 玄関・廊下の清掃 毎週 火・金曜日 98回	◎	◎
	設備保守管理	浄化槽点検 2ヶ月ごと 6回	◎	◎
	植栽管理	生け垣・植木の剪定、下草刈り 梅雨の前後に実施	○	○
	警備	夜間警備 センサーによる警備	◎	◎
	小規模修繕	散策路の補修	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備点検 年度に1回	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 通年9時～17時15分	◎	◎
	公共性・公平性の確保	来園者の満足度を高め、また来たいと思ってもらえるよう努める	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	企画プログラム数:87(933人) 団体利用:30回(600人) 里山づくり活動:100回(300人)	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	新しいプログラムを開発しながら、参加者の満足度高める工夫をする	◎	◎
利用 状況	利用者数	25,000人 [前年度:25,128人]	○	○
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	—	—

収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料・補助金) 収入 24,729,000 円 (収入:うち補助金 17,84,000 円) 支出 24,729,000 円	決算額(指定管理料・補助金) 収入 32,542,900 円 (収入:うち補助金 17,84,000 円) 支出 32,542,900 円 (支出:うち修繕・整備等) 散策路災害復旧工事 1,758,900 円 計画修繕費 6,055,000 円 収入総合計 32,542,900 円 支出総合計 32,542,900 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	消耗品等の無駄を省く	必要経費の節約に努め、無駄のない経費執行が果たせた	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情には真摯に対応し、苦情について職員全員で共有し対応・対策を考える	大きなトラブルの発生やクレームについての大きな問題はなかった	◎	◎
	危機管理体制の確保	散策路・登山道の点検 木製遊具の点検 警察等の関係機関との連絡・連携	自然災害による倒木や崖崩れはあったが、その都度点検し、大きな瑕疵の発生はなかった	◎	◎
	県・関係機関との連携	県庁農林水産部治山課、丹波の森協会との連携を密にする。	関係機関との連携を進めた	◎	◎
	業務の再委託の状況	マツタケ山の整備	マツタケ山の整備 9月～11月に近隣の3自治会に委託	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

里山公園としての自然環境が、野生動植物の愛好家の方々に大変好評で、京阪神間を中心とした来園者の急増が見られる。そういった方々から、「美しい」、「素晴らしい」とお褒めの言葉を頻繁にいただいております。持続可能な公園環境整備を一層進める思いを強くしている。

今後とも、来園された方々が感動する里山公園として、創意工夫を凝らしながら、なおいっそうの人気を博する里山自然公園へと高めていきたい。

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	ささやまの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ボランティアスタッフが班毎に会議を開催し、利用者の意見を反映し、豊かな里山づくりの推進と自然や里山文化に触れる機会となるプログラムを企画している。
- 森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により、効率的に行っている。
- 昨年度の過去最高来園者数（25,128人）には到達しなかったが、京阪神間を中心に来園者数が増加し、2万人を超えた（コロナ前の令和1年度：17,000人）。これについてはコロナ禍に対応し、感染防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行ったこと、さらにボランティアスタッフが中心となって美しい里山の景観の維持管理に努め、来園者から高評価を得た結果によるものと考えられ、大変評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。
- ボランティア体験などのプログラムの開発により、社会教育施設としての役割も期待したい。また、それが新たな担い手の確保につながることを期待したい。
- 苦情、要望については、当日配置されたスタッフによる対応で終わるのではなく、全スタッフで共有し、公園運営の改善に活かしてほしい。
- 今年度迎える開園20周年式典の7つの柱のひとつである「地域の教育機関、各種団体との連携」をさらに強化し、県民に愛される里山公園づくりに努めて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和 4 年度 管理運営評価シート

施設名	やしらの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	やしらの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常的に細部に至るまで清掃を行い、常に清潔に保つことで規範を作り、ゴミの発生源を排除することでゴミゼロを目指し快適な環境を提供する。	母屋、施設の便所等の清掃及び園内のゴミ拾い巡回と併せて隣接する県道に不法投棄の防止看板を設置、ゴミ拾い、見回りを毎日実施徹底することでゴミを捨てない環境づくりを推進。 ゴミを捨てない規範が出来ており、散策路にほとんどゴミが無く来園者に気持ちよく施設を利用していただいている。刈草や生ごみの堆肥化、間伐材の資源化などにも取り組んでいる。	◎	◎
	設備保守管理	施設設備(電気・空調等)及び園内木製品(木道等)について保守点検を行い、必要に応じて保守整備を行う。 整備にあたり伐採木の利用等園内の資源を有効活用する。 自主点検チェックリストをもとに年一回以上実施。	日常の保守点検を実施。木道等の構造物の改修計画を作成し優先度が高い箇所から順次補修工事を行った。ボランティアスタッフによる見回りや自主点検チェックリストをもとに点検を実施した。安全性を重視し計画的に補修を実施。 ボランティアスタッフの活動の一環として管理費以上の施設整備を実施した。あらゆる手法を探り極力低コストでの維持管理に務めた。ナラ枯れによる危険木等の処理も迅速に行うと共に、状況に合わせて散策路を封鎖する等安全を優先した管理を行った。	◎	◎
	植栽管理	園内の除草・草刈り及び植物の育成・管理について計画的に実施する。	専門的知識及び技術が必要な森林整備については、専門業者に委託し、安全かつ効率的に実施。生物多様性に配慮すると共に、大型の台風や暴風雨が頻発する昨今の気象条件やナラ枯れ被害を考慮した今必要な森づくりを推進する。適期を逃さない除草を日常管理で行うなど安全快適な管理を実践した。 通常の管理に加え、生物多様性に配慮した公園づくりを推進。企業と協働で森づくりを行うなど先進的な取り組みとして評価を得ている。植栽木についてもボランティアスタッフが剪定を行うなど県民参加の公園づくりを実現している。ナラ枯れの調査を実施し、被害状況のマッピング、危険な立ち枯れの処理を実施した。	◎	◎

	警備	園内の財産を保全するために必要な環境を整備する。夜間の警備は機械警備による委託業務とする。	車上荒らし対策・不法投棄防止として看板を設置し、職員による巡回強化や声掛けを実施。夜間の施設警備は、警備保障会社に委託することにより管理している。地域の交番等と連携し見回りを依頼するなど犯罪防止に務めた。	○	○
	小規模修繕	危険防止及び安全確保等のため、必要に応じて施設の修繕等を実施する。修繕にあたり園内の資源を有効活用する。	老朽化した散策路の階段補修等優先順位の高い箇所から修繕を行った。 木道修繕に伴う程度の良い廃材はストックし、安全上問題のない散策路の土留めや腐葉土ポストの整備などに再利用し、事業の推進とコストの削減を両立した。 企業やボランティアの力で施設の維持管理も行い、低コストで来園者が安心快適に利用できる環境を整備できた。	◎	◎
	法定点検の実施	車両 車検 1台 12ヶ月点検 1台 消防用設備点検 1回	車両 車検 1台 12ヶ月点検 1台 消防用設備点検 1回	○	○
運營業務	開館日・開館時間等	【休園日】 毎週月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)、 年末年始(12月29日～1月3日) 【開園時間】 9:00～17:00	計画通り開園することが出来た。 閉園30分前と10分前に閉園案内の放送を実施。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	地域の資源として豊かな自然環境を保全する。 HP等各種メディアを活用し広域的に活動の周知に努める。 利用者のニーズを把握し、だれでも足を運び楽しめる公園、参加しやすいプログラムを企画する。魅力ある事業を行う。	月2回「森もりの日」を設定し、誰でも参加できる県民参加の森づくりを推進し、県民がボランティアとして事業に参画しやすい環境整備に務めた。 フェイスブック・インスタグラム等SNSで広く広報を行い、公園の魅力や活動の様子を発信した。多様な内容のプログラムを企画実施し、ニーズにきめ細かく対応した。園内に情報交換用の掲示板を設け活動の活性化とコミュニケーションの深化を図った。高齢化社会と身障者や車イスでの利用を視野に入れたユニバーサルデザインを意識した公園づくりを推進した。 自然環境保全の広域的な活動拠点として役割を果たしている。 スタッフが主体となって幅広いニーズを受け入れる公園づくり、仕組みづくりに意欲的に取り組むことが出来た。	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	<p>プログラム開催回数(150 回程度/年)</p> <p>県民の多様なニーズに対応したプログラムを開催する。</p> <p>利用団体のニーズに合ったプログラムの開催。ボランティアによる里山づくり活動。平日の利用促進。</p> <p>企業との協働事業の推進。</p> <p>月2回の「冒険ひろば」を開催する。</p>	<p>総プログラム計画数 164 事業 実開催プログラム数 157 事業 プログラムのべ参加者数 4,107 名 団体利用:200 回(3,638 人) 里山づくり活動:87 回(607 人)</p> <p>ボランティアスタッフ主体のプログラム企画・運営が定着しており、企画数・内容ともに充実している。木育準備会による木育木エプログラム、大人向けプレミアムプログラムの実施や平日プログラムの充実により新たな利用者を拡大した。</p> <p>環境学習、団体利用の受け入れとサポートにボランティアスタッフが主体的に関わり実施した。</p> <p>「子どもの冒険ひろば開設費等補助事業」の補助を受けて月2回の冒険ひろばを開設し、子どもたちが自然の中で安心して遊べる環境を整備した。</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	<p>プログラムのおわりにアンケートなどを用いて参加者自身がふりかえりを行えるよう促し、参加者の変化を検証し満足度を高める機会を設ける。</p>	<p>ふりかえり結果を分析し、次期プログラムに反映させることにより、プログラム内容の充実、丁寧な対応、適正な参加料設定などに活かし、多くのリピーターを得て、高く評価されている。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	<p>目標総利用者数:30,000 人 [前年度実数:27,566 人]</p>	<p>総利用者数:31,184 人 プログラム参加者:4,107 人 団体利用者数:3,638 人 里山づくり活動:599 人 感染症対応の状況が緩和し、自粛や中止となる機会は数える程だった。</p> <p>これに伴い、公園利用状況やプログラム、イベントなどの実施回数、来園者の推移も平年並みに近い形となった。</p>	◎	◎
	施設稼働率	<p>利用料金収入施設なし</p>	<p>利用料金収入施設なし</p>	—	—
収支状況	収支計画と実績	<p>予算額(指定管理料) 収入 26,488,000 円 支出 26,488,000 円</p>	<p>決算額(指定管理料) 収入 36,985,550 円 支出 36,985,550 円 (支出:うち修繕・整備等) 計画修繕費 10,497,550 円 収入総合計 36,985,550 円 支出総合計 36,985,550 円</p>	◎	◎

	<p>経費節減に向けた取組</p>	<p>業務を PDCA サイクルに則り、常に見直すことで経費節減を心がけ効率的に職務に取り組む。</p> <p>環境保全事業、子どもの居場所等に係わる助成事業の情報収集を行い積極的に活用する。</p> <p>自主事業を拡充し、協力金を得ることで運営サービスを充実させる。</p>	<p>日常業務の優先度を精査し、効率的に運営することでコストの削減に取り組んだ。事業ごとにふりかえりを行い、次の事業をより効果的に実施できるよう努めた。プログラムの運営・施設運営がスムーズに行える適切な支出を行った。運営のコスト意識を職員に徹底した。</p> <p>田畑農産物の販売や助成金の活用など自主事業により、管理費以上の運営を継続した。</p> <p>助成金事業を有効活用し、プログラムや事業を充実させると共に、それぞれの事業の PR に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪急阪神ゆめ・まち”ええこと”応援団 ・子どもの冒険ひろば開設費等助成事業 ・GreenGift 地球元気プログラム 	◎	◎
	<p>苦情要望等の対応体制・内容</p>	<p>苦情要望に対しては公平かつ真摯に対応し、公園のイメージアップに努める。</p>	<p>利用者の立場になり、より快適に利用できる環境整備を心がけている。</p> <p>隣接田畑への支障木の伐採など隣接地権者を尊重し、地域と良好な関係を維持している。</p> <p>利用者とのコミュニケーションを図り、ニーズに柔軟に対応した結果、利用者が気持ちよく利用できる環境を提供できた。</p> <p>地域の一員として地域住民と平素より良好な関係を築き、その役割を果たしている。</p> <p>季節の花の開花情報の問い合わせが多く HP やブログにて情報発信した。</p>	◎	◎
<p>運営体制</p>	<p>危機管理体制の確保</p>	<p>危機管理体制を整備する。</p> <p>個人情報の保護に努める。</p> <p>安全講習会 年 1 回以上実施。</p> <p>食品衛生管理者を設置。</p> <p>緊急連絡先の掲示。</p>	<p>緊急連絡網、防火管理組織等の整備を行った。個人情報の管理体制を徹底。園内各所に緊急連絡用の看板を設置。ため池に救助用浮き輪を設置。ボランティアスタッフ自身による防火安全講習や子どもたちに大切に正しく道具を扱えるよう指導、安全意識の醸成と安全第一の運営を行った。ボランティアスタッフが主体的に安全に対する呼びかけを行い、安全意識の向上につながった。組織として安全衛生担当理事を中心に危機管理体制の構築を図っている。</p> <p>食の提供に際して、食品衛生管理者を配置し食中毒予防に関しても最大限に留意した。</p> <p>時勢に必要な危機管理として感染症に留意した運営を実施した。</p>	◎	◎

	<p>県・関係機関との連携</p>	<p>県、地域、関係機関との連携を図る。</p>	<p>嬉野台生涯教育センター、教育研修所、県民局、地元 NPO、かとう環境パートナーシップなど連携を図った。</p> <p>とんどまつりの実施や地元へもち米の寄贈など地域間及び世代間の更なる交流の推進が図れた。</p> <p>高校生や大学生主体のプログラム運営の機会提供とサポートができた。ひょうごSDGsネットワークと連携し、SDGsを意識した取り組み実施に向けて、県民や企業と協働で情報収集、プログラム立案ができた。</p> <p>地元自治体との環境パートナーシップ協定に基づいた事業に協力し、地域に貢献している。</p> <p>関係機関と平素よりコミュニケーションを密に、良好な関係づくりを心がけて協働による相乗効果を生み出す取り組みを行った。</p>	◎	◎
	<p>業務の再委託の状況</p>	<p>警備 警備会社 東洋テック姫路(株) 事業系一般廃棄物収集運搬 (株)ウエルフェアー 田畑耕作 委託者 2名</p>	<p>警備 警備会社 東洋テック姫路(株) 事業系一般廃棄物収集運搬 (株)ウエルフェアー 田畑耕作 委託者 2名</p>	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

個々の判断による感染症対策は必要であったものの社会全体として対応が緩和傾向となったことや蓄積された状況への対応力から平年に近い運営に戻ることができた。

コロナ過で離れてしまった利用や滞ってしまった事業を再び稼働させることを踏まえた上で、状況の中で培ったノウハウ、新たに生まれたニーズを生かして事業を発展させていきたい。

今後も多くの人に愛される県民が主体的に参画し、県民のための公園として存在価値を生み出す持続可能な運営を目指す。

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	やしろの森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	やしろの森公園協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 活動スタッフ（ボランティアや企業の森参加企業）が主体的にプログラムや森林作業等の事業を企画し、実施している。月二回、「森もりの日」と称する全体作業日を設け、活動スタッフと一般参加者、企業間の交流が活発に行われている。
- 森林整備、施設補修について、計画を作成した上で、優先順位の高い箇所から改修工事を実施し、来園者の安全確保に努めている。また、ボランティアの参画により効率的に行っている。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた上で、プログラム数・内容ともに充実させ、県民の多様なニーズに応えられるよう努めている。
- 高齢者や障がい者などの車椅子利用者の来園を想定し、ユニバーサルデザインを意識した公園づくり、仕組みづくりに意欲的に取り組んでいる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。また、SNSの存在を来園者やプログラム参加者に周知し、公園の存在をより多くの県民に知ってもらうことで、様々な世代の来園者が増えることを期待したい。
- 多くの地域団体、企業、学校と連携しており、大変評価できる。それらのつながりを活かし、団体利用の増加に努めるよう工夫して取り組んで欲しい。
- 公園の活動企画運営にボランティアスタッフが大きく関わっていることを8割以上の来園者が知っている。また、ボランティア活動に興味がある来園者が7割近くいる。ボランティア活動について知ってもらう機会やボランティア体験などを通して、新たな担い手の確保につながることを期待したい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	宝塚西谷の森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(特非)宝塚NISITANI	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管 課
維持 管理 業務	清掃	施設内:毎日、トイレ:週2回 駐車場:月1回(草刈り・ゴミ 拾い) 窓:年1回(業者委託) 床・ウッドデッキ:年1回(業 者委託)	計画通りに実施。来園者か ら綺麗な施設だと喜ばれて いる。 ウッドデッキは、柱塗装を行 ったため見送り。	◎	◎
	設備保守管理	管理棟芝屋根の管理:年2 回 散策路の保守点検:月2回	計画通りに実施。大雨や強 風の後には、散策路の点検に 入っている。	◎	◎
	植栽管理	毎月作業計画を立てて実施 草刈り・花壇整備・芝刈り 剪定・水掛・施肥等	計画通りに実施。草木を枯ら す事無く、管理できている。	◎	◎
	警備	夜間警備:セコムに委託	セコムは問題なく警備でき ている。 当方で設置した防犯カメラは 問題なく稼働している。	◎	◎
	小規模修繕	受水槽タンク修繕 木柵の防腐処理	受水槽の経年劣化により実 施。	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽点検:年3回(東・西) 消防設備点検:年2回	計画通りに実施。	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 4月～9月:9時～18時、10月～翌年 3月:9時～17時	毎週月曜日、年末年始 (12月29日～1月3日) 4月～9月:9時～18時、10月～翌年 3月:9時～17時	◎	◎
	公共性・公平性の確保	誰にでも利用してもらえるよ うに、配慮した。 車椅子2台貸し出し。	ケア施設の散歩コースにな っている。	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	※前年度実績 企画プログラム数:56回(1,320人) 団体利用:29回(1,359人) 里山づくり活動:184回(782人)	企画プログラム数:70回(2,771人) 団体利用:57回(1,980人) 里山づくり活動:156回(965人)	◎	◎
	利用者満足度調査結 果 (アンケート調査)	東の谷管理棟と西の谷農舎 にアンケート用紙を置き記入 してもらおうようにしている。	思うようにアンケートが回収 できなかった。	○	○

利用状況	利用者数	40,000 人 [前年度:37,029 人]	37,078 人 横ばい状態	○	○
	施設稼働率	利用料金収入施設なし	利用料金収入施設なし	—	—
収支状況	収支計画と実績	予算額(指定管理料・工事委託料) 29,360,000 円	決算額(指定管理料・工事委託料) 収入 33,105,000 円 支出 33,105,000 円 (支出:うち整備・工事等) 隣接地樹木伐採 385,000 円 散策路安全柵設置等修繕工事: 1,500,000 円 東の谷管理棟再塗装:1,860,000 円 収入総合計 33,105,000 円 支出総合計 33,105,000 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	適切な人員の配置、各事業は外注でなく職員が実施。	指定管理料の範囲内で活動した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	公園長が対応。軽微な要望などは事務局次長に報告。各担当で処理する。	電話・メール等での要望・質問は迅速に回答・改善をしている。	◎	◎
	危機管理体制の確保	連絡網を整え、緊急時のマニュアルを作成。 毒虫に刺された時や熱中症が発生した時の対応マニュアルを作成。 消防訓練・AED の使用訓練。	消防訓練・AED の使用訓練が出来なかった。	○	○
	県・関係機関との連携	電話・メールなどで密に連携を図る。	連携は図れたと思う。	◎	◎
	業務の再委託の状況	なし	管理運営はすべて、NPO 宝塚 NISTANI で行った。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>大きな修繕を2カ所することが出来た。 日々の清掃、保守管理、プログラム等は職員が計画を立てて実施。指定管理料内で適切に執行できた。 令和5年度は、コロナ前と同様に大きなプログラムを開催する事と、季節ごとの花木などがもっと楽しめるようにして来園者に喜んでもらい、知名度が上がるようにしたい。</p>

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	宝塚西谷の森公園	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(特非)宝塚 NISITANI	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 都市近郊の立地を生かし、都市住民に対し、里山の大切さの啓発を行っている。
- プログラムの申し込み開始時に参加者が満員になることが多く、家族連れに魅力的なプログラムを企画しており、リピーターを定着させているといえる。
- 地域の小中学校との連携や中学生のトライやるウィークの受け入れを行うなど、環境学習のフィールドになっている。
- 森林整備、施設補修について、ボランティアの参画により効率的に行っている。また、幅広い年齢層のボランティア学生ボランティアを募集し、地域の人材の協力を得ながら公園独自のボランティア集団の育成に努めている。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえたプログラム活動を工夫して行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- プログラムについては、現存の内容を工夫発展していくだけでなく、年間を通じた農業体験ができるなどの強みを活かしながら、新規でも申し込みがしやすい内容、方法を実施し、さらなる来園者の確保ができるよう期待したい。具体的には、年間を通じた農業体験ができる強みを活かし、新型コロナ感染拡大に配慮しながら、子連れで参加できる料理の
- リピーター、団体利用を増やすために、来園者からの要望をアンケートだけでなく聞き取るだけでなく、引き続き、来園者に声かけを行なうなど、生の要望を聞く等取組に努めて欲しい。
- ふるさとの森公園の「県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、地元住民と都市住民、世代間交流の場、親子・家族のふれあいの場、自然観察・体験の場を提供し、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進する」との理念を踏まえた運営が行われており、引き続きこうした取り組みを継続・拡充することが望まれる。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立三木山森林公園	現指定管理期間	令和4年～8年(5年間)
指定管理者	(公社)ひょうご農林機構	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	利用者の快適性をさらに高めるため管理水準を超えた清掃管理業務を実施	<p>・管理水準以上の内容を実施 (森の文化館及びロータリー付近トイレ:2回/日、その他トイレ:1回/日、共用部分:日常清掃に加え定期清掃2回/年、貸館:利用後随時 など)</p> <p>・職員の日常巡視巡回中にも対応 利用者が清潔で気持ちよく利用できるよう、常に注意を払い、貸館利用者にも利用後の清掃を促し協力を得ることで、さらに快適性が高まっている。</p> <p>利用者を対象としたアンケートでは、施設内(屋内)の清潔さについて98%が「とても良い」、「良い」と回答している。屋外トイレの清潔さについては、87%が「とても良い」、「良い」と回答している。</p>	◎	◎
	設備保守管理	建物・工作物・遊具などの保守点検、整備を定期的実施、必要に応じて修繕を実施	<p>・建物、構造物は毎日職員が巡視し点検(休園日は警備会社に委託)</p> <p>・設備の法定、定期点検は業者に委託 (電気工作物:月次点検6回年次点検1回、防火設備:2回/年、自動ドア:2回/年、空調設備:2回/年、エレベーター:月次点検 12 回年次点検2回、木製施設:1回/年 など)</p> <p>毎日の巡視の徹底や法定点検等を計画どおり実施したことにより、故障発生時の影響を最小限に抑えることができた。今後も利用者の安全確保及び利便性に考慮しつつ取り組んでいく。なお、令和元年度に老朽化対策工事を実施されが、建物外の舗装、配管などは対策されず、更新が未実施の機器もあることから対策が必要である。</p>	○	○

	植栽管理	「生物多様性の保全」や「森の若返り」を重視した「森づくり施業計画」(平成 30～令和4年度)に基づき、きめ細やかで適確な施業の実施	<p>経験豊富な樹木医や「三木山サポーター」の協力の他、調査ボランティアグループや専門業者に委託し、新たに多様な生物が生息する環境の創生など事業計画に基づく管理を実施した。</p> <p>事業計画に基づき雑木伐採・ススキ、チガヤ等の草原性植物の植栽、水辺の環境創生等を実施し、利用者満足度の向上、生物多様性への環境づくりに努めた。更に、ボランティアのさらなる意欲向上と積極的な連携を図ることにより魅力ある景観づくりに努めた。</p>	◎	◎
	警備	事故、盗難、破壊等の犯罪及び火災等の発生を防止し、利用者の安全及び財産の保全	<p>利用者の安全確保や事故や不正行為防止のため、開館時間中は職員、夜間及び休日は委託業者による巡回警備を行い、常に園内の状況に注意を払うとともに、必要に応じて地元警察による巡回を要請した。</p> <p>施錠や機械警備等の徹底を図るとともに消防訓練等を実施することにより、事故、盗難、火災等の発生予防に努めた。</p>	◎	◎
	小規模修繕	概ね 100 千円以上については、所管課と協議し、それ未満については、指定管理者が実施	<ul style="list-style-type: none"> ・100 千円以上については、所管課と協議し、危険箇所について利用者に注意喚起した。 ・100 千円未満については、利便性を考慮のうえ迅速な修繕を実施した。 ・施設の老朽化に伴う修繕については、利用者の安全確保に配慮し早期に可能な限り実施した。 <p>異常を発見した場合は速やかに職員自らによる修繕を行い、職員が修繕できない場合には業者による点検等を実施し、利用者への影響を最小限に留めるよう努めた。</p>	◎	◎
	法定点検の実施	施設・設備の状況を記録 法定水準を超えた保守点検業務に配慮	<p>・設備の法定、定期点検は業者に委託実施した。</p> <p>各種設備等の法定点検はもとより保守点検を着実に実施し、設備の安全性を確保した。</p>	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	水曜日(祝日に当たるときはその翌日)、年末年始 9:00～17:00	水曜日(祝日に当たるときはその翌日)、年末年始 9:00～17:00	◎	◎

	公共性・公平性の確保	利用者の年齢や性別、障害の有無などに係わらず、平等利用を確保し、利用サービスの向上を図る。	<p>毎朝、職員ミーティングにより注意事項などを情報共有するとともに、受付業務におけるマニュアルを強化するなど、公平で安心親切な対応を心がけるよう職員全員に周知徹底している。</p> <p>来園者を対象としたアンケートでは、スタッフの対応について、「たいへん満足」、「やや満足」と回答した利用者が97%以上と非常に高い評価を得ており、利用者に対するサービスの向上ができたと考える。</p>	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	森づくり、自然観察、クラフト体験などの森林環境や生物多様性に関する普及啓発企画や音楽祭、茶会など施設利用企画などを「イベント検討委員会」の指導助言のもと「三木山サポーター」と連携しながら実施	<p>・イベント 計画42回→実施34回</p> <p>・環境体験学習等 計画25回→実施20回</p> <p>コロナ禍においても、県が実施している環境体験学習については、感染拡大防止対策を実施の上、実施要望があった場合には積極的に受け入れて全て実施した。</p> <p>また、イベントについても、感染拡大防止対策が適切に実施できると判断した場合には積極的に実施した。</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者に対する、施設利用に関するアンケートの実施	<p>R4.4～9、R4.10～R5.3に利用者279人に対するアンケートを実施し、満足度に関して4～9月では「たいへん満足66%、やや満足32%(計98%)」、10～3月では「たいへん満足68%、やや満足31%(計99%)」との回答があった。</p> <p>利用者へのアンケートでは、非常に高い評価を得ていること、また、リピーターが約8割いることから、利用者の満足度は非常に高いと認識している。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	600,000人 [令和3年度:577,361人]	568,002人	○	○
	施設稼働率	[令和3年度] 音楽ホール:40.3% 多目的ホール:19.3% 展示室:47.2% 研修室:17.3% 会議室:17.3% クラフト館 97.9%	音楽ホール:53.1% 多目的ホール:26.5% 展示室:46.5% 研修室:28.7% 会議室:28.7% クラフト館 97.5%	○	○

収支状況	収支計画と実績	指定管理料: 108,289,000 円 利用料金収入: 3,500,000 円 その他収入: 8,467,000 円	指定管理料: 124,143,577 円 利用料金収入: 4,772,550 円 その他収入: 9,524,585 円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	人件費の削減 光熱費の削減 委託料の削減	・シルバー人材センターからの人材派遣の活用 ・三木山サポーターや森林ボランティア等、協力者による業務の遂行 ・園内の照明を LED 対応に交換し、デマンド監視システムによる電気使用量を削減 ・保守管理委託にかかる契約年数を5年とし経費削減(R4 年度～)各種事業の執行にあたり、サポーター等との連携を図るなど、人件費の削減に努めた。また、電灯の間引き消灯、室内温度 28 度設定、屋根散水装置の稼働、修理やボイラーの稼働調整などを行い、光熱費の削減に努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケート・みなさまの声・メール等により要望等を把握し対応	・迅速、丁寧に対応 窓口や電話による苦情、要望等には、迅速、丁寧に対応し、意見箱等への投函分については、改善点や今後の対応等を掲示して説明を行うなど、適切な対応に努めた。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害、その他事故時の利用者の安全確保等	・消防訓練実施: 2回/年 危機管理マニュアル等に基づき、ボランティアを含めた訓練を行い、必要時に迅速な対応ができるよう取り組んだ。	◎	◎
	県・関係機関との連携	本社を通じて県と密に連絡を取りながら管理運営を実施	・修繕が必要な箇所など、本社を通じて密に県と調整 ・レストラン運営会社のシンエーフーズ(株)と密接に連携 緊急を要する修繕を円滑に実施した。また、レストランの集客に繋がるアイデアなど日常的に意見を交換し、双方の集客増加に努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	設備の保守、清掃などを専門業者に再委託して実施	法定点検や保守点検、清掃や警備などを専門家に再委託して実施し、利便・安全の確保に努めた。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

定期的な施設点検や森林整備等適切な維持管理を行うとともに、コロナ感染症拡大防止対策を適切に行いながら集客イベント等を実施した。アンケートによると利用者満足度も高く、全体的に良好な公園管理を行えたと考える。令和5年度は、引き続き、利用者の利便と安全の確保を進める。

令和4年度 総合評価シート

評価者：農林水産部治山課

施設名	兵庫県立三木山森林公園	現指定管理期間	令和4年～令和8年(5年間)
指定管理者	(公社)ひょうご農林機構	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 施設の管理については、毎日の巡視や法定点検の実施に加え、小規模修繕に迅速に対応し、来園者の利便性及び安全性を確保している。
- コロナ禍に対応し、感染症防止対策を踏まえた運営を工夫して行っている。
- リピーターが約8割で、利用者の満足度が高いことについては、一定の評価ができる。今後は全体の利用者数を増加させるべく新規来園者の獲得に向けた取り組みを工夫して行うことも期待したい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 当公園の管理にあたっては、その特色である広大な里山林について、種や遺伝子を含めた生物多様性保全の大切さや森林・里山管理の必要性を、来園者さらには公園外にもわかりやすく伝えることが期待される。
- 現指定管理においては、当公園が県民にとって「森林とのふれあい」を深め「人と森との共生」につながる場となるよう、管理運営に努めているといえる。
- 今後も引き続き、専門家の意見を聞き、適切な施業計画の立案・管理に努めるとともに、公園独自のボランティアである三木山サポーターや関係機関・団体と連携して各種取り組みを進めて欲しい。来園者の目線に立って、より県民にとって親しみやすい地域密着型の公園となるよう、より一層の拡充を期待したい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である